

黒さつま鶏の適正な出荷日齢と飼料用米給与による肉質改善効果

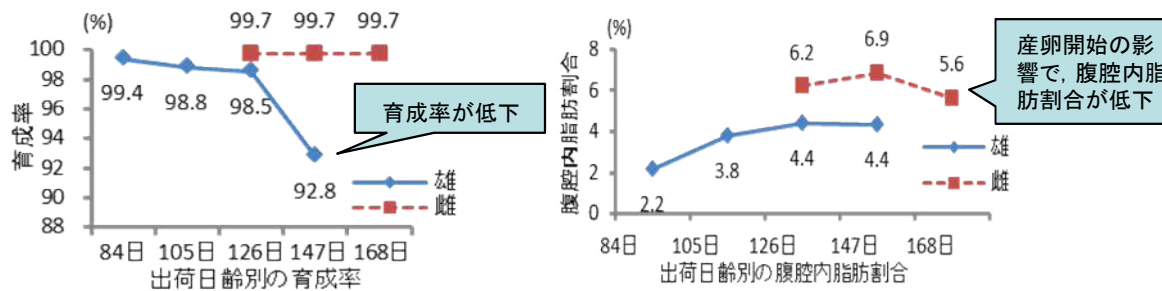
黒さつま鶏の出荷適期と飼料用米給与による肉質改善効果を明らかにし、「黒さつま鶏飼養マニュアル」を作成

背景・目的

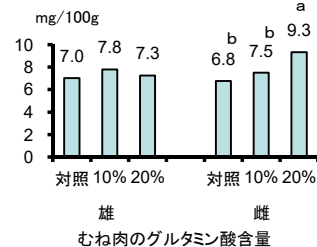
- ・黒さつま鶏の生産羽数は増加傾向にある。
- ・生産現場からは、適正な出荷日齢や飼料用米の活用法等について知見が求められている。
- ・出荷日齢及び飼料用米給与による肉質への影響を検討し、飼養管理マニュアルを作成し、ブランド力の強化を図る。

成果の内容

○黒さつま鶏の出荷適期は、雄では126日齢、雌では147日齢までに出荷



○出荷前2週間、仕上げ飼料の10%、20%を飼料用米で代替給与した結果、発育に影響はなく、むね肉は柔らかくなり、むね肉のグルタミン酸含量および皮のオレイン酸含量が高くなるなど、肉質が向上



○これらの成果をもとに、飼養マニュアルを作成



導入メリット

飼養マニュアルの実践

○出荷適期は、雄では126日齢、雌では147日齢までに出荷
雄では126日齢までに出荷することで、育成率の低下を防止(6%)

○仕上げ飼料を飼料用米(10~20%)で代替
むね肉のグルタミン酸含量や皮のオレイン酸含量が高くなり、肉質向上が期待

○飼養管理の改善や防疫・衛生対策の徹底
事故率の低減と出荷羽数の増加が期待



「黒さつま鶏」のブランド力強化が図られる。

期待される効果

黒さつま鶏の生産性向上と品質の齊一化を図ることで、ブランド力の強化が図られる

普及対象・範囲
黒さつま鶏生産者17戸・県内全域